

Research

2019 . 2nd

特集 学びの場としての授業実践

皆川雅樹の授業探訪②

ジグソー法で自走した学びにつながる

〈世界史B〉の授業



清水書院

本社

〒102-0072

東京都千代田区飯田橋3-11-6

営業部 TEL 03-5213-7151

FAX 03-5213-7160

編集部 TEL 03-5213-7155～6

大阪支社 / 札幌営業所

URL <http://www.shimizushoin.co.jp>

【特集】学びの場としての授業実践

皆川雅樹の授業探訪②

ジグソー法で自走した 学びにつながる

〈世界史 B〉の授業

～個々の生徒を見る目が冴える!～

岩手県立大船渡高等学校

〈世界史 B〉の授業

担当教員：梨子田 喬 先生

※2019年3月に取材

◆取材者プロフィール

皆川 雅樹 (みながわ まさき)

産業能率大学経営学部准教授。博士(歴史学)。専修大学兼任講師(教職課程)。元専修大学附属高校・法政大学第二高校教諭(地理歴史科)。アクティブラーニングを意識し、ファシリテーション、KP法などを駆使して、授業などの学びの場づくりに取り組む。多くの教育系メディアで実践が紹介され、講演・研修講師を全国で務めている。著書『日本古代王権と唐物交易』(単著、吉川弘文館)、『アクティブラーニングに導くKP法実践』(川嶋直との共編著、みくに出版)など。
@ご感想・ご意見などは下記メールアドレスにお願いします。

MINAGAWA_Masaki@hj.sanno.ac.jp

0. 授業探訪の目的と目標

第2回目の授業探訪。前回は〈現代社会〉の授業だったが、今回は〈世界史 B〉の授業を探訪した。

〈授業探訪の目的〉

学び続ける教員たちがつくる学びの場との対話を試みる。

〈授業探訪の目標〉

- ①授業の特徴に触れることができる。
- ②マインドを含めた授業デザインについて考えることができる。
- ③教員にとっての授業の「価値」について考えることができる。

1. 今回の授業探訪先の授業構成

第2回目の授業探訪先は、岩手県立大船渡高等学校(全日制)の〈世界史 B〉(以下、科目としての世界史 B の授業には〈 〉を付す)の授業である。この〈世界史 B〉は、高校2年生の授業科目として設定されており、文系・理系それぞれが選択する。

同校の地歴・公民科目の内訳は、次の通りである。

1年：現代社会(2単位)

2年：

文系 地理 B・世界史 B・日本史 B から選択(3単位)
地理 A・世界史 A・日本史 A から選択(2単位)
倫理(2単位)

理系 地理 B・世界史 B・日本史 B から選択(3単位)
地理 A・世界史 A・日本史 A から選択(2単位)

※2年では、地理 B・日本史 B を選択した場合は世界史 A、世界史 B を選択した場合は地理 A もしくは日本史 A、となる。

3年：

文系Ⅰ 地理 B・世界史 B・日本史 B から選択(5単位)
政治経済(2単位)

文系Ⅱ 地理 B・世界史 B・日本史 B から選択(5単位)
地歴探究【学校設定科目】(1単位)

理系 地理 B・世界史 B・日本史 B から選択(4単位)

☆取材時でのカリキュラム

今回取材させていただいた梨子田喬先生(【写真①】)は、2年生の〈世界史 B〉をご担当されていて、文系52名、理系27名がそれぞれ選択している。

梨子田先生の〈世界史 B〉授業は1コマ50分間を次のように構成している。



【写真①】〈世界史B〉を担当する梨子田先生「学び方の多様性、視点の多様性、理解の多様性。多様であることを大切にしながら、知識理解とともに資質・能力を磨く授業、教師が語るのではなく生徒自らが気づき歴史を語る授業に取り組んでいます。」



【写真②】教室全体の雰囲気。通常教室の机・椅子とは違い、長机・パイン椅子という「非日常空間」での学びは効果的！？

- ① 3名1組のチーム結成・配付プリント確認・役割分担 (約5分)
- ② エキスパート活動 (約30分)
- ③ ジグソー活動 (約12分)
- ④ まとめのレクチャー (約3分)

①～④と単純に構成を紹介したが、このプロセスの中に複雑な仕掛けがたくさん盛り込まれている。なお授業構成では、ジグソー法*をベースとしたものを、2017年度より実施しているという。

2. 「異民族と唐宋について」 考える授業

2019年3月、梨子田先生が担当する〈世界史B〉の文系52名のクラスにお邪魔させていただいた。52名に対する一斉授業なので、ホームルーム教室では入りきらず、視聴覚室を使用していた。

本時のテーマは「異民族と唐宋について」。中国史の唐宋変革期を中心とした中華思想や異民族との関係に関わる内容である。

① 3名1組のチーム結成・配付プリント確認・役割分担 (約5分)

まずは、前時と同じ3名1組のチームが結成されて着席する(【写真②】)。そして、授業で使用するプリントが配付された。プリントには、A・B・Cそれぞれのグループへの設問とヒントが書かれている(【資料1】)。同じグループの3名でA・B・Cのどれを担当するかを検討し決定する。

*ジグソー法 東京大学 CoREF が開発した「知識構成型のジグソー法」のこと。詳細は <http://coref.u-tokyo.ac.jp/archives/5515> などを参照されたい。

異民族と唐宋について、以下の語句を必ず用いて説明しなさい。

■ Aグループ(教科書ベースちょっとはみ出し)

唐は国際秩序の安定した時代であったが、宋代は異民族に苦しめられ、その対抗に悩まれた時代であった。宋代の対異民族政策について、唐宋変革期の歴史的展開とともに以下の語句を用いて説明しなさい。

中華思想(中華世界に自負はなんぞ?)、冊封体制、例:渤海▼安史の乱、ウイグル、▼8世紀東アジアは「唐、ウイグル(何高)、吐蕃(何高)の鼎立(ていりつ)、黄巢の乱、吐蕃も弱体化、かつてモンゴル系遊牧民の登場▼耶律阿保機(読める?)、遼、渤海を、後晋、燕雲十六州、農禱氏の地、二重統治体制(どういう?)▼若劣(若劣?首都?)、燕雲十六州奪還目指せ!、契丹か、しかも度々国境侵入される(なぜ?ヒント:禁軍強化)▼1004=の盟(漢字で書け)、=と=を徹骨して送る、君臣の礼から家人の礼へ、唐と宋:国際的影響力はどちらが大?▼タングート(党項)、西夏、李元昊(読める?)、慶曆の和約

問 宋と遼の関係について、燕雲十六州や遼遼の盟の内容に触れて説明しなさい。

■ Bグループ(異民族の視点から中国史をみる)

唐の時に構築された国際秩序は唐宋の混乱の中で崩壊し、五代や宋になり変わった形となって再構築される。この変化について、唐の時代はウイグルを中心に、その後は契丹の目線から、以下の語句を用いて説明しなさい。

ウイグル、くそ何が中華思想だ、冊封体制(どんな制度?)、例えばウイグルは▼=使率いる軍団が国境を警備して邪魔だ、=使が裏切ったぞ、=の乱、どれ中華に思を売るか▼ハンシウイグル、キルギス、トルコ人は中央アジアへ、かつてモンゴル人が再び強勢▼契丹、= = =系遊牧民で部族制、建国者の部族名と名前、926 = =を滅ぼす、後晋がウイグルの支援を求めてきた、= = =州よせ、農禱氏の地、= = =体制、宋ができた(建国者:漢字かける?)、あれ国境警備軍団いざ(ヒント:禁軍強化)▼1004 = の盟(漢字書ける?)、講和、侵入しなくてやるから=と=をよせ、そのかわりあつちのメンツ(= 思想)はたててやるか、宋と遼の関係は【君臣 or 兄弟】関係に

問 「安史の乱」、「黄巢の乱」以後のモンゴル高原における異民族の動向について、説明しなさい。

■ Cグループ(難しいけど漢文と世界史を同時に学んじたい)

資料①を読んでほしい。もし柳元宗が生きていれば、彼はその後の歴史に対して何と何といったらうか。その後の歴史の展開を理解した上で以下の語句を用いて説明し、その後彼に何と何についてコメントしなさい。

柳元宗だんな?、資料①内容を伝えて、「義師は愚かだ(『一〇〇』)ウイグル▼安史の乱、鎮圧できねえ(『 a 』)、ウイグル、吐蕃、混乱おさまらねえ(『 且 』)、藩鎮(って何?)頼む、朱全忠(藩鎮勢力)、唐を滅ぼし = = を建国▼後晋、契丹ありか(『 』)、燕雲十六州(どこと)、宋(建国者漢字で書け、首都)▼契丹(国号は?)侵入すんな(『 a 』)、辺境の軍隊が弱体化したからか(なぜ?ヒント:11行目→18行目は理由が?)、1004 = の盟(漢字で)、内容を説明して▼唐と宋の国際的影響力の違い▼タングート【モンゴル or チベット or トルコ】、西夏(建国者)、慶曆の和約▼資料①の最後の一文どういう意味?(全体を振り返って)、柳元宗(773-819)が生きていれば彼は後の歴史に何と何というだろう?

問 遼について、建国者、統治体制、中華世界(五代の王朝や宋)との関わりを中心に説明せよ。

【資料1】配付されたプリント。設問文の下にあるヒントとなるキーワード・キーセンテンスは、ただ語句を並べるのではなく、トラップやダジャレもあり、読むだけでワクワク。

② エキスパート活動 (約30分)

次に、最初のチームは一時解散し、Aを担当する者、Bを担当する者、Cを担当する者が、分担ごとにそれぞれ3~4名ずつでグループを結成する。各グループの設問文を確認した上で、その下にある問題風キーワード・キーセンテンスの意味を、相談・検討しながら明らかにしていき、さらに下にある「問」に答えられるように準備していく(【写真③】)。



【写真③】1年間、この形式で学んできたこともあり、グループ結成の動きもグループ内での話し合いもスムーズに進む。



【写真④】各グループへ介入する梨子田先生。



【写真⑤】「冊封体制」についてのミニ講義中。



【写真⑥】さりげなく板書された内容。



【写真⑦】チーム内での説明。エキスパート活動のときよりも、静かにお互いに説明に耳を傾ける。

梨子田先生は、各グループをぐるぐると回りながら、「中華思想の意味はわかりますか？」のように介入しつつ、時にその場でヒントになるようなレクチャーもしていく（【写真④】）。さらに、理解が深まっていない用語などがある場合は、「ミニ講義をするので黒板の前に集まってください」と言い、黒板を使ってレクチャーを行う。この時は「冊封体制」についてミニ講義がなされていた（【写真⑤】）。また、特に言葉による説明なく、内容のヒントになりそうなことも板書していく（【写真⑥】）。

③ジグソー活動（約12分）

その次に、最初のチームに戻り、エキスパート活動で深めた内容について、A・B・Cそれぞれの担当者から説明が行われる。お互いにメモしながら内容の理解を進めていく（【写真⑦】）。

④まとめのレクチャー（約3分）

最後に、Cグループの資料として提供されていた柳宗元「罽說」（『柳河東集』）の内容と本時の内容との関係について、簡単に説明があった。「内を善くせず、外を恃む者、未だ罽の食とならざるべからざるなり」という部分と、唐宋変革期における中華世界と異民族との関係をどう考えるかという問題提示がなされ、授業は終了した。

3. 本授業の特徴

本授業の特徴として、

- i) 適度な動きがある
 - ii) 毎時間同様の授業構成
 - iii) 教科書を越える内容が適度に盛り込まれる
- の3点があげられる。

i) 適度な動きがある

選択授業ということもあり、ホームルーム教室から視聴覚室への移動という動きから始まる。先生が生徒たちの待つ教室へ移動するのではなく、生徒たちが先生の待つ教室に移動することで、あらかじめ授業の場を整えておくことが可能となる。

授業中は、エキスパート活動に入る前とジグソー活動に入る前に、それぞれ移動がある。また、エキスパート活動中は、先生のレクチャーを受けたり、他のグループに教えてもらったりするなど、動きに制約がない。生徒たちにとって自由度のある空間が、安全・安心な学びの場につながるのであろう。

大学の授業では、52名という人数は決して多い人数ではないが、高校での普通の授業ではかなりの大人数である。そんな中で、〈世界史B〉の授業を成立させていくためには、先生と生徒たちとの良好な信頼関係の形成がなされているのではなかろうか。

ii) 毎時間同様の授業構成

①3名1組のチーム結成・配付プリント確認・役割分担(約5分)、②エキスパート活動(約30分)、③ジグソー活動(約12分)、④まとめのレクチャー(約3分)という授業構成は、時間幅の多少の違いはあるが、年間を通じて同じサイクルを繰り返す。同日に取材した理系クラスも、同じサイクルで授業が展開されていた。

②のエキスパート活動中に自分たちでとことん考えて知識を整理していくこともできたり、先生のレクチャーが必要なときに聴けたりと、ただのグループワークだけではないところが、生徒たちの信頼を得ているポイントかもしれない。配付されたプリントの内容のA・B・Cの選択、グループワーク時のメンバー選択など、自分たちで選択することで責任感が生まれ、生徒たちの自走がみられる。ここがジグソー法を使う上でのポイントである。すべてが先生の指示によって構成されていないところも、安全・安心な学びの場につながるのであろう。

iii) 教科書を越える内容が適度に盛り込まれる

今回取材した授業内容において、A・B・C各グループに示された設問文には、A「教科書ベースちょっとはみ出し」、B「異民族の視点から中国史をみる」、C「難しいけど漢文と世界史を同時に学んじたい」とそれぞれ付け加えられている(【資料1】)。つまりAは、教科書の内容で理解がほぼ可能であるが、少しだけそれ以上の問題が書かれている。Bは、教科書や副教材の内容で理解可能であるが、問題の主語が異民族になっており、視点の持ち方が求められる。Cは、Bの異民族の視点に加えて柳宗元の漢文の意味との照合が必要となり、国語(漢文)との合教科的な内容になっている。

そしてそれぞれの「問」では、表現方法は違うが、実は説明すべき内容はほぼ同じものになるようなしかけになっていることは、世界史がご専門の読者の先生方はすぐにお気づきになるのではないだろうか。ここでは、以下の通りであった。

A「宋と遼の関係について、燕雲十六州や澶淵の盟の内容に触れて説明しなさい」

B「『安史の乱』『黄巢の乱』以後のモンゴル高原における異民族の動向について説明しなさい」

C「遼について、建国者、統治体制、中華世界(五代の王朝や宋)との関わりを中心に説明せよ」

教科書の内容を適度に越える部分を盛り込むことによって、多様な視点で物事を考えるように導いているのである。

4. 授業デザインの特徴

〈世界史B〉の1年間の授業デザインの特徴として、

- i) 考え方を学べる授業
 - ii) ICTを活用した授業外学習
 - iii) 観点別評価を意識した定期試験問題
- の3点があげられる。

i) 考え方を学べる授業

配付プリント(【資料1】)のA・B・C各グループへの指示は、ア)設問文、イ)ヒントとなる問題風キーワード・キーセンテンス、ウ)問(題)、という構成になっている。これらの内容に一工夫を加えて、知識習得をベースとした思考力・判断力・表現力の育成にも努めている。

ア)設問文について 例えば、複眼的視点で【資料2】のようなものを提示する。イスラーム(世界の歴史)について、スンナ派とシーア派、それぞれの視点でジグソー法を用いて考えるパターンである。

イ)ヒントとなる問題風キーワード・キーセンテンスについて ①対比&否定語に気付けるか型、②資料の読解&選ばせ型、③接続詞で論理構築(誘導)型、④オープンクエスチョン型、⑤わけのわからない外国語型、⑥分類型、⑦暗号化型&そういえば気付かせる型、⑧指名させる型、⑨ギャグも生徒に言わせる型、など配置もバリエーション豊かで、生徒を思考させる仕掛けに富んでいる(【資料3】)。

■ Aグループ(スンナ派の視点からイスラーム史を学ぼう)

ウマイヤ家のクーデタは成功し、その一派はスンナ派としてイスラーム世界のメインストリームを形成するに至った。スンナ派の立場から、イスラームの歴史を語りなさい。

ムハンマドの死、選挙で選ばれた正統な後継者、====時代、私はウマル、アブ=バクル、ウスマーン(何家)、アリー(何家)、資料1、「ウスマーン編纂の立役者だからしょうがないウスマーン(何家)、資料1、暗殺(黒幕は?)、アリー(何家、ムハンマドとの血統で言うところの…)、ハシミヤ家vsウマイヤ家、アリー、【ええ、そんなのアリー!】、ムアーウィア、ダマスクス、ウマイヤ朝、シーア派の奴らが批判しているぞ【なんて?血統、選挙】、一方で、【それに対して反論せよ、スンナ(言行)、領土拡大、イベリア半島、西ゴート、トゥール=ポワティエ間、【ウマイヤ朝とともにイスラーム世界は拡大:地図確認ね】、領土とともに多数派になっていくぞ!【シーアスンナどっち?:ハディースを重視】

■ Bグループ(シーア派の視点からイスラーム史を理解したい)

ウマイヤ家のクーデタは成功し、反対する一派はシーア派としてイスラーム世界のマイノリティを形成するに至った。シーア派の立場から、イスラームの歴史を語りなさい。

ムハンマドの死、選挙で選ばれた正統な後継者、====時代、私はウマル、アブ=バクル(ムハンマドの親友)、ムハンマドの家柄じゃないしコーラン編纂の立役者だからしょうがないウスマーン(何家)、資料1、暗殺(黒幕は?)、アリー(何家、ムハンマドとの血統で言うところの…)、ハシミヤ家vsウマイヤ家、アリー、【ええ、そんなのアリー!】、ムアーウィア、ダマスクス、ウマイヤ朝、ムアーウィアに従う奴らいいの?【批判せよ、あいつらイスラーム教は…、血統】、一方であいつら反論しているぞ、【なんて?:スンナ】、ウマイヤ朝領土拡大、あーざんらんあいつら勢力を広げていく…、俺たちが少数派に…、【シーアスンナどっち:イマームと呼ばれる指導者がいる】

【資料2】複眼的視点の設問文の工夫。

のように告発するか」「あなたはペリクレスです。サラミスの海戦後の政治状況の中で市民に対して演説をすることになった。その原稿を書きなさい。書き出しは「アテナイ人諸君！」で始めること」などのように、最低限の知識に紐付けが求められながらも、明確な正解がない問題が主である。

このように、定期試験における様々な出題形式において、生徒たちはどのパターンが得意なのか苦手なのか明確になり、知識理解の方法の改善や大学入試問題の演習にもつながるのである。

以上のように、授業内外で生徒の主体的な動きを促すとともに、それに見合った到達度や評価が、生徒たちにも梨子田先生にも見えるようにするために、ICTの活用や定期試験が機能していると言えよう。

5. 新科目「世界史探究」とのつながり

梨子田先生の〈世界史B〉における授業内での設問文や問（題）の配置方法や定期試験における観点別評価の視点は、次期学習指導要領における「世界史探究」においても（「日本史探究」においても）参考になるのではなかろうか。

内容に関わるころでは、「A. 世界史へのまなざし」で、教師による世界史学習の意味・意義に気付かせ、

世界史 B

注意事項

◆ 知識理解	40点
♣ 思考判断表現	20点
◆ 資料活用 の技能	20点
♥ 関心意欲態度	20点

問題用紙は全部22ページまであります。問題をもらったら、ページを確認して問題用紙と解答用紙に記名して下さい。
必ずしも第一問からやらなくてよい。

組 番 名前

【資料6】定期試験の表紙。問題数70問、22頁におよぶ。一定程度の知識理解とともに情報処理能力や表現力も問われる。

動機付けを図ることが求められる。梨子田先生の実践では、ジグソー法による授業進行と配布プリントの工夫や授業外におけるICTの活用による達成感の醸成などがあり、世界史学習の意義と動機付けがなされている。「B. 諸地域の歴史的特質の形成」「C. 諸地域の交通・再編」「D. 諸地域の結合・変容」「E. 地球世界の課題」では、各時期を読む解くために教師による問いの設定と生徒自身による問いの設定がそれぞれ求められる。「世界史探究」は、これまでの〈世界史B〉と内容構成にほぼ変化はないが、単位数が減るなど、これまでとは違う環境（カリキュラム）となる可能性があり、内容の焦点化・重点化の起加減がかなり大切となる。梨子田先生の実践では、網羅的に内容を扱いつつ、設問文や問（題）の配置の工夫によって焦点・重点となる主題が明確になっている。さらに、主題によっては正解が必ずしも明確ではない設問も用意されており、生徒による探究につながるしかけも盛り込まれている。

6. 授業の「価値」

梨子田先生は、世界史のような教科での実践だけではなく、大学入試における小論文指導や〈総合的な学習の時間〉における探究型授業「大船渡学」の実践およびコーディネーターとしてもご活躍である《なお、「大船渡学」については、大正大学『地域人』27号（2017年）、リクルート『CareerGuidance』Vol.419（2017年）・Vol.425（2018年）等で紹介されている》。

梨子田先生は学びの場をつくる上で、「参画のはしご」という考え方を大切にしている、という。ニューヨーク市立大学のロジャー・ハート教授が提唱するこの考え方は、子どもの学習活動における参画の度合いとそのあり方を示すものである（【資料7】）。



- ①子ども主導の活動に大人も巻き込む
- ②子ども主導の活動
- ③大人主導で意思決定に子どもも参画
- ④大人主導で子どもの意見提供のある参画
- ⑤与えられた役割の内容を認識した上での参画
- ⑥形式的参画
- ⑦お飾り参画
- ⑧偽り参画

【資料7】ロジャー・ハート「参画のはしご」。上（①）にいくほど主体的に参画していることになる。

「偽り参画」から大人主導の参画を越えた「子ども主導の活動に大人も巻き込む」状態をめざす。

教師の指示・指導ではなく、大人への付度のためでもなく、生徒自身がやりたいことにどのように大人も巻き込んでいくか。教師主導の指示・アドバイスで生徒が動かされるのではなく、生徒の主体性を育てるための学びの場づくりをめざすことは、教科、入試に向けた準備のための活動、大船渡学とともに共通している。梨子田先生は、机上だけの学びを越えた、生徒たちの先を見据えた“学びの場づくりリスト”なのである。

最後に、理系クラスのある生徒さんに〈世界史B〉の授業についてインタビューした内容を紹介して終わりたい。

「世界史は、ただただ教師の説明だけで授業を受けるだけだと難しいが、こういう授業形式だと自分から理解していけるから楽しく覚えやすい。また、先生の知識がすごく、何でも知っていることがとても魅力的で、自分たちの解釈に違和感があるところはすぐに修正したり指摘してくれたりする」と。

世界史の専門家としての教師が、一斉講義だけではなく、個々の生徒との対話によって、生徒たちとの信頼関係の構築はもちろんのこと、生徒それぞれの理解を促していくことにつながる場として授業が機能しているのである。



◆訪問先データ

岩手県立大船渡高等学校（公立・共学校）

〒022-0004 岩手県大船渡市猪川町字長洞 7-1

TEL：0192-26-4441（事務室）

FAX：0192-26-4307

HP：<http://www2.iwate-ed.jp/ofu-h/index.html>

ニュース検定の毎日教育総合研究所からのおすすめ教材



共通テスト 国語（記述式）・公民 思考力を鍛える

発行 毎日教育総合研究所／発売 毎日新聞出版
定価 本体 680円＋税
B5判 80ページ
ISBN 978-4-620-90739-0

2020年度に始まる「大学入学共通テスト」（共通テスト）。「国語」に導入される記述式問題、「公民」の新傾向問題—そのどちらの備えにもお役立ち、という欲張りな問題集。

「思考力、判断力、表現力」の基礎体力をつけたい人に贈る「はじめの一步」の決定版！

【公民】

共通テストはセンター試験と比べて、現実の社会的事象にアプローチする視点が求められます。

- 学校での学習内容につながる時事的テーマを厳選。
- 「主張と根拠のマッチング」「原因と結果の関係」「推論」といった基本的な解法ツールを手ほどき。
- さまざまな形式に応じたグラフの読解法も解説。
- 一部の設問は記述式。国語の記述式問題（実用的文章など）のトレーニングにも役立ちます。

【この一冊で】

- 身近な時事テーマを幅広く扱っているため、時事的な素養を求められる「小論文」「面接」の備えにも威力！